

第十二回

秦野市

親子川柳大会

入選作品集

発刊に寄せて

平成二十二年度より始まった親子川柳大会は、今年で十二回目を迎えました。昨年九月に教育長を拝命してから、改めて作品に目を通してみましたが、普段思っているとも言えない家族間の感謝の思いや、ふれあいの言葉を川柳でやり取りすること、家族の心のつながりを深めることにつながるものと再認識いたしました。

今回は新たな取り組みとして、通常の夏休み期間の募集に加え、五月から六月末まで募集期間を設けた二次募集制を取り入れました。一方、今年度よりスタートした新しい教育振興基本計画では、社会教育と学校教育の協働を目指しており、校長会でも積極的な参加をお願いしたこと、そして昨年度から取り入れた電子申請の応募も増え、全体の応募作品数は、昨年をはるかに上回る九八九作品でした。

昨年から続いている新型コロナウイルスの流行により、「新しい生活様式」が定着しつ

つありますが、だからこそ家庭での日常的な親子の触れ合い、コミュニケーションの時間が、一層大切なものであると感じる機会となったかもしれません。入賞した作品を見ると、今年の世相を上手に反映したものの、なんて事のない日常の一コマを捉え、思わずうなずいてしまうような素晴らしい作品が揃っていました。こうした普段の何気ない会話などから生まれる作品を通して、改めて家族間でのコミュニケーションの大切さに気付き、お互いを思いやることや、絆を深める機会の一助になればと思います。

最後に、作品を応募していただいた皆さまの御活躍をお祈りするとともに、大会の開催に御尽力いただきました志水義夫実行委員長及び大会実行委員の皆さま、大会の周知や作品の受付に御協力いただきました小中学校の先生方、大会へ御後援いただいた各団体の皆さまに心から感謝を申し上げます、発刊のあいさつといたします。

秦野市教育委員会教育長 佐藤 直樹

作品講評

ウイルス感染危機下での開催も二度目となる令和三年の夏。第十二回秦野市親子川柳大会に応募された作品は、まだ警戒宣言体制下にあつてそのほとんどがもはや日常となつてしまつた「出かけられない夏休み」で詠んだ作品が多くを占めました。それだけに、逆に変わらない日常を詠んだ作品や技巧（趣向）の面白さが光を放ちました。

親子川柳大賞受賞作品は、毎年繰り返されてきたであろう夏休みの、どここの家庭でもそうであろうと思わせる生活を同音異義や反復という表現技法で描いています。同じ趣向の作品は特別賞受賞作品にも見られます。

もちろん感染危機だからこそ詠まれ得た作品も集まりましたが、そういう状況そのものを詠んだだけではなく、例えばハートフル大賞受賞作品は、孟蘭盆

会という伝統的な年中行事の「今」の中だからこそ表現できる作品であり、伝統的世界に今の語（「コロナ」・「マスク」）が挿入されるところに川柳らしさ（川柳の母体となった俳諧という文藝ジャンルは俗語を巧みに用いるところを肝要とします）が感じられます。このような趣向の作品は応募作品全体の多くを占めていて、どの作品も近似した水準にあり選考にあたって悩んだところでもあります。そういう中で佳作も含めて入選したものは少しだけ「今」という時点（ピンポイント）から「普遍」的なものをより強く感じられたものがある作品たちです。

そういう中で例外的な作品は特別賞の中の「しらす干し」のやりとりで、発想力の点においてまさに「特別」な作風となっています。

実行委員長兼審査委員長 志水 義夫

入

賞

親子川柳大賞（市長賞）

（子） 面倒だ 宿題悩む 夏休み

（母） 麺どうだ？ 献立悩む 夏休み

南が丘小学校六年 伊藤 堇 母 桃子



ハートフル大賞（議長賞）



（子） コロナだよ 帰ってこれるの ご先祖様

（母） 盆棚に マスク置いとこ きてくれる

渋沢小学校四年 伊藤 咲華 母 愛美

ベスト親子大賞（教育長賞）



（子） とどいたと つまさき立ちの 達成感

（母） まだまだと こころ浮き立つ 背伸びかな

東中学校二年 門脇 愛里 母 麗香

特別賞 秦野商工会議所賞



(子) 手伝うよ 母の荷物 おや、重い

(母) ありがとう そんなあなたは 親想い

西小学校五年 甲田 大雅 母 祐美

特別賞 秦野市農業協同組合賞



(子) 知らぬ間に 丸く育った このスイカ

(父) 知らぬ間に 丸く太った このお腹

東小学校三年 西島 悠斗 父 健司

特別賞 国際ソロプチミスト秦野賞



(子) ママキレイ ちよつと見てよ 星夜空

(母) ママ綺麗 その部分だけ こだまする

広畑小学校六年 横井 空 母 恵子

特別賞 秦野ロータリークラブ賞



(孫) 画面越し その中で見る 祖母のシワ

(祖母) 二年越し コロナ禍で知る その成長

末広小学校五年 根岸 望珂 祖母 カズ子

特別賞 秦野ライオンズクラブ賞



(父) 気付いたら 越されてしまった 背の高さ

(子) 腹回り 貫禄増した 在宅勤務

大根中学校三年 伊 歩望 父 幹男

特別賞 秦野丹沢ライオンズクラブ賞

(子) バーベキュー いっぱい食べて 満腹だ

(父) 良く食べて オヤジの財布 空腹だ

大根小学校六年 川本 悠生 父 浩平



特別賞 秦野名水ロータリークラブ賞

(母) しらす干し 少し残して どころしたの

(子) お風呂にね 入れたらきつと 生きかえる

上小学校一年 野上 遥真 母 かおり



特別賞 秦野市PTA連絡協議会長賞

(子) ただいまと 元気な声で 家帰る



(母) おかえりと 小さな変化 見つけたい

広畑小学校四年 玉田 美優 母 恵

佳

作

(子) 夏まつり 夜空にうかぶ 花畑

(母) 窓枠に おさめて眺む 家まつり

南小学校六年 長澤 和泉 母 智子

(孫) せみとんぼ つかまえたけど さわれたい

(祖父) 孫たちの 弱点見つけて ほくそ笑む

大根小学校二年 梅澤 志道 祖父 博之

(子) 犬がきた 毎日おせわ たのしいな

(母) もうちよつと ねかせておくれ 土日の朝

大根小学校三年 吉川 のゆり 母 陽子

(母) いつまでも 着替えず怒る 夏休み

(子) パジャマから パジャマにかわる なつやすみ

大根小学校四年 松葉 妃南 母 朝美

(母) いつの間に 妹おぶるの 上手だね

(子) いつの日か 母さんおぶって あげるから

大根小学校五年 松森 宗吾 母 歩

(子) だいすきな ポテトサラダは 母の味

(母) だいすきな 娘のために つくる味

大根小学校六年 柳川 まい 母 千枝

(子) ゴロゴロと とおくでカミナリ おちている

(父) ゴロゴロと そろそろカミナリ おとそらか

西小学校二年 福永 晟大 父 純一

(子) せみがなく かぞくみんなで 水あそび

(母) 水鉄砲 母はカメラで 父はマト

西小学校四年 柏木 涼希 母 理恵

(子) 帰ったら 手洗いうがい アルコール

(父) そうだよね パパはおなかに アルコール

西小学校四年 吉藤 心音 父直

(子) ひらおよぎ れんしゅうするぞ かえる足

(母) ダイエット マットの上で カエル脚

上小学校二年 榊田 彩渚 母 華名江

(子) 初つりで 三びきつれた 大勝利

(母) ニジマスが 光っていたね 夏の陽に

上小学校六年 秋山 直登 母 千世

(子) 創造性 僕なりの夢 クリエイターだ

(父) 継がせれぬ パパの仕事は 製造だ

広畑小学校二年 泉 椋太 父 順一郎

(父) 夏の空 ころころ変わる 雨と晴れ

(子) パパとママ ころころ変わる 夫婦仲

広畑小学校四年 斧田 華 父 龍太

(孫) 夏休み 初めてつくる たまご焼き

(祖母) もうあきた 孫が自慢の たまご焼き

広畑小学校六年 太田 正樹 祖母 タカコ

(母) 子育ての 終わりを感じ 子の成長

(子) 子育ての 恩返しには かいごかな

末広小学校四年 長谷川 千翔 母 文子

(子) いつまでも このままにしないぞ コロナ株

(父) 株ならば 皆買わなければ 良くなるぞ

末広小学校五年 草間 琉 父 亮

(子) 夏休み もうすぐおわる さみしいな

(母) 夏休み もうすぐおわる うれしいな

南が丘小学校二年 伊藤 菖 母 桃子

(子) ひまわりに せたけがぬかれ おどろいた

(母) 水をやり お世話を重ね 育ってる

南が丘小学校三年 久保寺 玲菜 母 菜美恵

(子) 消どく液 ないから買ってね お母さん

(父) そうだよね たくさん買ってよ アルコール

南が丘小学校三年 福田 翔士 父 晋士

(母) 一日で あつという間に ごみ屋敷

(子) ゴミじゃないよ これが私の 発明品

堀川小学校五年 佐々木 菜乃葉 母 智子

(子) きれいだね よ空の下で おき花火

(母) まぶしいね 星と花火と 子の笑顔

鶴巻小学校二年 越光 玲奈 母 静

(父) パパ食べる？ ドライアイスを出す息子

(子) まちがえた！ それじゃなくてね アイスだよ

鶴巻小学校四年 大鹿 裕貴 父 誠

(子) 夏休み 宿題やらず 昼ねする

(母) 昼ねする 娘のとなりで 昼ねする

鶴巻小学校四年 斎藤 百々花 母 綾子

(子) 夏休み 外出自しゆく 料理する

(母) 夏休み パパと娘の レシピ増え

鶴巻小学校四年 樋口 琉夏 母 弘子

(曾祖父) 小さな手 ろくろを回す くるくると

(ひ孫) ありがとう 初のとら芸 はなまるだ

函嶺白百合学園小学校五年 高橋 麻帆 曾祖父 栗田 貞夫

(子) お父さん 毎日仕事 がんばって!

(父) 子の為に 頑張る親は 肌黒し

東中学校一年 鍵和田 真柚香 父 真宏

(母) ひまわりの めいろで迷う 私たち

(子) ひまわりの 伸びた先には 青い空

東中学校一年 古谷 妃榎 母 夕香子

(孫) たまにしか 会えないけれど 大好きよ

(祖父) たまにでも 会える日がある 喜びを

東中学校二年 岸 莉央奈 祖父 田中 孝一

(子) 愛してる おさまらない愛 受け取って

(母) 受け取るが 私の体に 触わるなよ!

東中学校二年 柴田 早彩 母 やよい

(母) 「暑いよ」と 薄着になれる うらやましい

(子) お母さん 自前の着ぐるみ もうぬげば

東中学校二年 山本 和果 母 有美子

(母) 四世代 我が家の女子の 笑う声

(子) 知恵袋 たくさんくれて 嬉しいよ

函嶺白百合学園中学校二年 高橋 愛直 母 麻里



第十二回秦野市親子川柳大会

☆事業概要

募集期間 一次募集 令和三年五月一日～六月三〇日
二次募集 令和三年七月二〇日～九月二日
対象者 市内在住・在学の小・中学生とその保護者
表彰式 令和三年十一月十三日(土) 午後二時
秦野市役所教育庁舎三階 大会議室

☆応募結果

応募総数 九八九点
小学生 七三五点 中学生 二五四点

☆掲載作品

入選四二点(入賞一点・佳作三一点)
小学生入賞九点・佳作二五点
中学生入賞二点・佳作六点
※佳作は、学校別・学年順・五十音順に掲載

☆秦野市親子川柳大会実行委員会

委員長 志水 義夫(東海大学文学部教授)
副委員長 川口 富治(社会教育委員)
委員 高橋 弘子(社会教育委員)
委員 柏木 敦子(秦野市立広畑小学校校長)
委員 林 健治郎(秦野市立鶴巻中学校長)
委員 和田 玲香(秦野市PTA連絡協議会委員)
委員 工藤 仁美(秦野市PTA連絡協議会委員)

☆共催

秦野市PTA連絡協議会

☆後援団体

秦野商工会議所
秦野市農業協同組合
国際ソロプチミスト秦野
秦野ロータリークラブ
秦野ライオンズクラブ
秦野丹沢ライオンズクラブ
秦野名水ロータリークラブ
※敬称略、順不同

第十二回秦野市親子川柳大会入選作品集

発行

令和三年十一月十三日
秦野市文化スポーツ部生涯学習課
秦野市桜町一―三―二
電話 ○四六三―八四―二七九二

